

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200455		
法人名	医療法人社団 豊生会		
事業所名	グループホームすぎの子		
所在地	札幌市東区東苗穂3条1丁目13番29号		
自己評価作成日	平成29年2月3日	評価結果市町村受理日	平成29年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆつくり、一緒に、楽しく、豊かに」の理念のもと、最期までその人らしく、楽しみがあり穏かで安心して過ごせるように日々関わらせて頂きます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170200455-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年2月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) ホームの環境：ホームは閑静な住宅街にあり、地域で作る「わくわく広場」やお茶会の「考流学舎」との交流、ユニット間の企画による相互交流、3ユニットならではの職員が多様な知恵の学習など楽しいホームづくりの工夫を凝らして運営に努めている。
- 2) 職員の態度・姿勢：制度開設以来のベテラン職員と他の職員の現場実習や研修を引き継ぎ、利用者への明るく、優しい適切な対応によるケアの実践に努めており、3ユニット相互の知恵を生かした企画連携などで豊かな職場づくりに努めている。
- 3) 家族の満足：職員の知識・技術・対応力、日常の運営状況の周知、個々の利用者の心身の状況に合わせた処遇の適切さ、企画運営の行事など家族を含む運営に満足を示している。
- 4) 地域との連携：社是の理念、運営方針、行動指針を明確にして、その核の一つを豊かな地域との連携に置き、地域の方々とともに利用者の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに」を理念とし、理念の共有の為玄関に掲示し、ケアの実践に繋がっている。	法人理念は地域に根差す豊かな医療と福祉、運営方針「地域と医療・福祉を結ぶ架け橋」としての信頼を。ホーム理念はこれを受けて、利用者本位な「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに」支援を目標に職員は共有に努めて実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議、避難訓練、わくわく広場、考流学舎を通じて地域の人と関わっている。	地域の意向をくむ地域関係者、家族、関係機関の要員による運営推進会議、防災等の地域協議、地元の「わくわく広場」利用者を招いてくれる茶会の「考流学舎」など地域の協力を得た交流の場が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や外でのアクティビティ、行事を行い、地域の人に活動を見て頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行いご家族様や町内会長、地域包括支援センター、管理者等が参加し、行事報告や利用者様の状況、意見交換等を行いサービスの向上に活かしている。	定期的な運営を図っているが今年度は4回にとどまった。地域関係者・包括支援センターなどとの調整に困難があった。家族の参加には発言も多く今後の運営に活かすことが期待できる。	地元関係者や機関との調整が困難な状況にあつては、身近に参加できる地元の関係者など弾力的・柔軟な参加などが有効なので、誰に、何を求めるかなどの工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ、相談等を行い協力関係を築いている。	管理者会議での市当局との会議や区内のホーム間連絡会議等行政方針や運営について情報交換に努め運営に生かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、身体拘束に対する知識を確認し、実践している。	職員相互にあつては先輩から日常的指導や学習会で拘束の現実と禁止事項を具体的に把握した介護を学び、また虐待や人権擁護の意味も含め実践に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の勉強会や研修会に参加し、勉強会をスタッフ全員で行い学び、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	サービスなどの必要性について入居者様が安心して活用していけるように考え、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約は管理者がご家族様に直接口頭や文章で理解、納得して頂けるまで見学や説明を行い、同意の元で契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見、要望があれば必要に応じてすぐに話し合い運営に反映することが出来ている。	来訪時の職員対応、電話等の連絡事項等の際に、細心の注意を払い対応に努め、家族の意向・意見を率直に活かすとともに、職員会議、カンファレンス会議、計画作成にも、その意向の反映に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行われているフロア会議や勉強会、リーダー会議や業務改善委員会等を開催し、意見交換を行い、運営に関する職員の意見や提案を反映できるようにしている。	定期的なフロア・カンファレンス会議、業務改善委員会では、業務の知識・技術力のみならず、利用者対応姿勢を聞き取り、人事考課では年2回の面接相互評価に関わり、職員の主体的取り組み志向と資質の意欲向上の機会として活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じて相談に乗ってくださったり、職員の話をよく聞いて働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人を把握し助言があり研修の参加の機会が設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はGH研修会も設けられており、その場をうまく活用して情報交換をしながらサービスの質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活習慣・疾患・内服していた薬等状況を把握し、不安や要望を確認しながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や職員が家族等の不安な事、困っている事に耳を傾けながら、ケアの方向性や支援内容の確認、理解、協力が得られる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を確認し、面談や他事業所等からの情報も得ながら内容を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の主体性を尊重しご自分の出来る限りの事は行いながら職員は介助に入る際は必ず声を掛け意向を確認しながら関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所された際は、本人の日常の様子などを伝えていく。希望・要望の確認をしながらともに支えていく関係性を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	故郷にスタッフと出掛けている。(外泊)故郷について調べ、その事について話をしている。	定期的な理美容交流、家族の来訪時の対応や外出や故郷訪問など、個々の実情に応じた馴染みの支援に当たっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士がコミュニケーションを取れる様に、レクリエーション・お手伝いなどを提供し、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様の御家族が来られ、お礼に来られたり、その後の状況をお知らせ下さるなど一部では、関係を築けた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を把握し、前向きに取り組んでいる。	長期にわたる利用者も多く、基本アセスメントに従い、日常の動作・希望・意向等を把握するとともに、家族の意見聴取やその変化を観察して、職員協議を重ね、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族や関係者から情報の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調管理に努め、本人の様子を観察しながら、記録、申し送りをを行い現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を確認し、毎月のカンファレンスや会議を利用して話し合い、介護計画を立てている。	介護計画は月例カンファレンスを基本に、介護計画の観察経緯と課題を職員相互の各職位による検討を重ねて最適な介護計画策定に努め、家族・本人と協議して決定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきなどから申し送りあげ、声掛けを行い実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて専門医療機関の受診を行っている。法人内の専門職との相談できる体制や設備の利用、行事等の参加を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での外出等を行い安全な暮らしを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する医療機関を大切にしている。受診する際は情報提供書を作成し適切な医療が受けられるように支援している。	基本的には利用者個々のかかりつけ医の受診を支援している。また必要に応じて家族と協議して事後の協力病院との往診など話し合い決めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活に変化があった際には訪問看護師に伝えスタッフ間でも情報を共有し適切な受診を受けられるよう支援している。		
		利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状の把握ができるように関係先との情報交換や相談を行いながら、早期に退院できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて家族、病院と協議し方針を共有し支援している。	重度化・終末期の対応は指針に基づき状況に応じた家族対応協議を基本としている。指針は協力病院・家族・ホームとの連携のもとに、詳細で具体的な規定に基づき協議の下に決定することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED操作訓練を行っている。急変時の対応マニュアルを作成し対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会も参加協力があり避難訓練を実施している。	消防当局と連携した想定防災訓練の実施、また、地域との連携は推進会議の議題とともに協議されている。備蓄等も準備している。	近年の想定できない災害も多く、当局も含めた地域防災についてはハザードマップ等による災害の多様性に応じた具体化を図るための、必要な地域規模に応じた防災対応に留意されるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重を重んじている。経験の浅いスタッフには指導育成を行い全体で取り組んでいる。	利用者は多様な生活経験を持ち、その個性的な対応については職員相互が共通して個々の状況を理解し、共有して対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り本人の希望を表せるようにかかわりながら自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切に希望に沿った生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みを把握しながらお洒落やお化粧を楽しめるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備を行い、食事への関心、楽しみを感じて頂けるよう取り組んでいる。	食事はできるだけ希望や嗜好を聞き、適えるよう努めるとともに、楽しみ多い食事作りに、個々の心身の状態に応じた食事の片づけ・食器洗いなどの参加を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の召し上がる量を把握し、一日に必要な摂取量が不足することの無い様支援、対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚れ、臭いを防止するため、毎食後、口腔の状態、本人の力に合わせたケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用、排泄の失敗を減らせるよう心掛け、入居者の負担軽減に努めている。	排泄の自立支援は利用者個々の状態に応じた観察とその場の対応に留意している。個々の失敗に応じ、満足する改善への、きめ細かな配慮に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬の調整や、腹部のマッサージを行うなどの対応に取り組み、普段から体調や様子を確認し、予防に取り組む。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望、体調に合わせた支援を行っている。	入浴も個々の多様な利用対応を考え、心身の状態やその日の気分を考慮して促すなど入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やその方の状況に応じた休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬支援、症状の経過観察や確認を行える。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の習慣、生活歴を知り、その方の力を活かした役割を支援し、楽しみや喜び、やりがいを感じて頂けるよう努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望にあわせて、時には家族様と一緒に外出している。	外出支援は近隣の公園、買い物、地域有志が招く、お茶会「考流学舎」「わくわく広場」の催し、他にホームの外出行事などに努めている。	家族の外出への期待も少なくなく、その周知については地域の支援などホームの活動・行事等を含め理解を得るよう期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別外出にて実施している。作りたい物、食べたい物を一緒に探しお金の支払いも支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話や手紙などの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のフロアーにて季節の花を飾ったり、四季に合わせたぬりえ、掲示板などを作っている。	3階建てのホームは南面に球面の窓枠が広がり開放的なつくりとなっている。各階とも鉢物や季節のひな壇を飾るなどゆったりとした居間空間を活用できる。温・湿度管理や彩光に留意した居心地良い場とするよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望に合わせている。一人で静かに過ごせる空間も保っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切なものを部屋に飾ったり、家族の写真を貼ったりその方にとって居心地がいいよう工夫している。	居室は家族とともに準備した利用者固有の備品・備具や置物・写真などが、個々の居心地に合わせて配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具やベットを安全に配置し、リスクがある入居者を見守る事ができる環境作りをしている。		